

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名 チャレンジ岡崎  
代表者名 杉山 智騎

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

## 政 務 活 動 報 告 書

令和 6年 3月 29日提出

活動年月日	令和5年 7月11日（火）～令和 5年 7月 14日（金）	
氏名	近藤 敏浩	
用務先 及び 内 容	1 7月11日	用務先 沖縄県竹富町
		内 容 頑張る地域応援プロジェクト事業について
	2 7月12日	用務先 沖縄県石垣市
		内 容 石垣島スポーツコミッションについて
	3 7月13日	用務先 沖縄県浦添市
		内 容 浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」について
	4 7月14日	用務先 沖縄県那覇市
		内 容 行政手続きのオンライン化について
備 考		

# 令和5年度 行政視察報告書

令和6年3月29日

チャレンジ岡崎 近藤 敏浩

## 1. 視察日程

令和5年7月11日(火)～7月14日(金)

## 2. 視察先及び視察内容

- (1) 沖縄県竹富町 7月11日(火) 15:00～17:00  
頑張る地域応援プロジェクト事業について
- (2) 沖縄県石垣市 7月12日(水) 10:00～12:00  
石垣島スポーツコミッションについて
- (3) 沖縄県浦添市 7月13日(木) 13:30～15:00  
浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」について
- (4) 沖縄県那覇市 7月14日(金) 10:00～11:30  
行政手続きのオンライン化について



## 3. 視察内容 および 所感・市への提言

### ■視察先：(1) 沖縄県竹富町

7月11日(火) 15:00～17:00

頑張る地域応援プロジェクト事業について

#### <頑張る地域応援プロジェクト事業の概要>

・やる気のある地域が自由に独自の施策を展開することにより「魅力ある島々」「魅力ある地域」に創造するよう、地域独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む。町内在住の個人、地域、公民館団体等に対し、地域創造交付金を交付し、地域の隠れた資源を再発掘し、魅力ある地域に取り組む機会を提供する住民自治の発展、さらなる地域活性化に資することを目的とする。

#### ・交付内容

(1)地域の魅力を発掘する個人

10人×100千円＝1,000千円 ※1人最高10万円まで

(2)地域の魅力を発掘する公民館

2団体×500千円＝1,000千円 ※1団体最高50万円まで

(3)地域の魅力を発掘する団体等

2団体×500千円＝1,000千円 ※1団体最高50万円まで

#### ・対象経費

備品購入費	事業実施に必要な備品(対象経費の30%以内)
消耗品費	事業実施に必要な資材、周知等の用紙代、材料代 等
食糧費	事業実施に必要な不可欠と認められる食材料代
燃料費	事業実施に必要な燃料代
報償費	講師やアドバイザーへの謝金 等
旅費	講師の旅費、研修会への参加旅費 等
印刷製本費	事業実施に必要な資料、活動報告書、パンフレット等の印刷又は写真のプリント代 等
通信運搬費	切手、はがき、小包等の料金 等
保険料	事業実施に必要な行事保険、講師・指導者が加入する損害賠償保険 等
手数料	銀行振込手数料、クリーニング代 等
使用料 賃借料	会場使用料、音響機器使用料その他機器のレンタル料、バス賃借料 等
その他	町長が特に必要と認めたもの (対象経費の判定については、個別に経費の内容を審査する)

### <事業の背景経緯>

- ・uターンの難しさ（介護士などなら給付する制度作るなどの施策）
- ・子育てしやすい所得の高い部分が必要
- ・旗頭が題材の竹富島映画で注目。シビックプライド醸成
- ・島星野や出来る
- ・「警察察いない」「ハブが出る」「キャンプ無理」「水が足りない」イメージ払しょく！！
- ・方言大会を活用する（方言大会記念誌）

### <具体的な事例>

令和3年度頑張る地域応援プロジェクト事業

竹富島産栗のブランド化【栗豊年PJT】

①伝統的な栗の脱穀・精穀をの古老に習う

事業の効果：伝統的な手法を学び、資料として残すことができた。

②講師を招き、機械での栗の脱穀・精穀を習う事業の効果：講師から習うことにより、栗特有の注意点や工夫を教わることができた。

③講師を招き、栗を活用した商品開発の講習事業の効果：栗の食材としての活用方法を学ぶことができた。

④島の祭事における伝統食であるイイヤチを島産の栗で作成

事業の効果：作成したイイヤチを地域の方々に試食してもらい、栗の活用に対して意識・意欲を持つ方が増えた。

⑤沖縄本島、粟国島の6次産業化事業視察

事業の効果：暮らしにどう農を組み込むかが課題

⑥竹富島地域自然資産財団のメンバーと島の畑における栗の作付け計画、島内の耕作放棄地の活用方法を相談事業の効果：栗を食として活用ができるようになったことで、地域の生産者の作付面積の量が2倍に増えた。地域の30代～50代の中で栽培に興味を持った方が増えた。

⑦栗の播種と伝統作物を用いたお菓子を提供するアクティビティを実施  
事業の効果：試作を島の方々に提供し、意見をもらい、昔の食文化・農文化の話を聞き取りすることができた。

#### <地域活性化のための取り組み>

- ・記念誌を後世に引き継ぎ
- ・写真家 ドローンで 竹富島の良いところをアピール
- ・なごみの塔いい伝え伝承。
- ・昔は 800 名が住んでいた。Uターンを呼びかけ。
- ・種取りまつり など観光資源として活用
- ・赤瓦 2 箇所のみ 文化と自然 海きれい 星きれい 世界遺産にする！！

#### <事業の効果実績>

- ・令和 3 年度会館開館
- ・記念誌発行（15 名で 230 ページ 教員イシガキヒサオ編集委員長）
- ・島出身 15 回集まる 記念し効果で郷土愛醸成
- ・資金は助成金 町のほか 県 国 より
- ・インターネットの進歩は Uターンを呼ぶ

#### <現在の課題、今後の展開>

- ・種取祭りなど伝統行事を絶やさない。
- ・建設費用が高い
- ・人口増加にむけて事業を打ち出す。

#### ・所感

「人口数百人の島で数千万円の建物を立てるなどといそれたことをした」と、長く竹富島を離れて教員をしていた新しいのた会館落成記念誌編集長の石垣久雄先生は語る。本土と比べて建築費が 3 倍となってしまう。竹富島において、新しいのた会館建築するに大変なご苦労であったと推察されます。それだけにこの記念誌の完成は、先生にとって我が子が生まれたと同じような思いだとの言葉実感がこもっています。記念誌を購入させていただきました。内容を見ますと、島の人々の島に対する愛が伝わってきます。会館には「私たちの合言葉 交友笑歩 ケーラ マジヨンナリ バライシティ アライハラディ みんな一緒に手をつなぎ笑って歩んでいきましょう。」と掲げてあります。良い言葉です。星ノ屋が出来、島民が故郷に自信と愛と取り戻されたようです。ホテルと伝統的な祭りの相乗効果で旅行客が島の隅々にまで足を運んでくださるそうです。本市においても誘致のみにならず、文化、芸術、歴史など来訪者が来岡したさい、その目的とは異なる場所にどうしたら訪れていただけるか、相乗効果を生み出される仕組みをより一層取り入れていただくことを期待します。

■視察先：(2) 沖縄県石垣市 +

7月12日(水) 10:00~12:00

調査項目：石垣島スポーツコミッションについて

<石垣島スポーツコミッションの概要>

【構成組織】

石垣市、(一社)石垣市体育協会、石垣市商工会、(一社)八重山ビジターズビューロー、(一社)石垣市観光交流協会、八重山郡スポーツ協会、石垣市スポーツ推進委員会、(一社)石垣島アスリートクラブ、八重山地区障がい者文化・スポーツ振興会

【設立日】

令和5年3月18日

【特徴】

「スポーツ島の魅力? = 無限大∞」を掲げ、スポーツから広がる様々な価値や効果を発揮さ昔氏をはじめ、訪れた人も含めてあらゆる人が輝きを放ち、活力ある「島」の実現を目指す

<関係機関との連携>

石垣市スポーツコミッションが関連機関との連携

<スポーツツーリズムを通じた地域活性化>

<市民の声(評価・要望)>について

<現在の課題、今後の展開等>について

これまでとこれから~課題とねらい~

ねらい1 スポーツコミッション設立によって窓口の統一を図る

受け入れから各種施設の予約、紹介をスポーツコミッション窓口一つで行うワンストップ窓口を設置し、顕在・潜在ニーズに応えることで、これまで以上に合宿・キャンプ誘致の拡大を目指す。

接骨院紹介

ねらい2 観光コンテンツへの誘導

受け入れたキャンプ・合宿によって来島したアスリート等を観光コンテンツに誘導し、さらなる満足度の向上を目指す。加えて、観光客等にスポーツと地域資源と掛け合わせたコンテンツを創出し提供することで、まちづくりや地域活性化に繋げる取組を推進する。

こうしたスポーツツーリズムによる来島者の増加や満足度の向上によって島全体をスポーツで盛り上げることで、島民のスポーツに対する意識や意欲の向上を図り、もって心身の健康増進に貢献することを目指す。

■視察先：(3) 沖縄県浦添市

7月13日(木) 13:30~15:00

浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」について

<浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」の概要>

施設の概要

**目的** 障がい者(児)に対する幼少期から成人期までの一貫性のある継続支援及び地域の相談支援強化に資するため、障がい福祉関連複合施設を設置する

名称 浦添市障害、福祉関連複合施設 ピアラル浦添

開所年月日 令和3年4月1日

建物概要

鉄筋コンクリート造 地上4階

床面積 2404 平米

**敷地面積** 1884 平米

用地購入費 1億7020万

工事費 7億4532万円

防衛省補助補助率 3分の2

補助金名 防衛省施設周辺整備助成事業

<開設の経緯と背景>

発達障害に対する社会的な理解の進展、行政に対して、相談支援を求める市民の声が多くなる総合的、かつ、専門的な相談支援を行う窓口、親の会など、市民からの要望、幼少期から成人期まで一貫性のある継続した相談支援所、施設拠点施設の整備を求める親子通園による通所事業地域で暮らす障害を持つ子供や家族への相談関連施設への援助地域支援の強化を図る自動発達支援センターの設置に関して、国の基本指針に基づき進めていく必要があった

浦添市は人口約114,000人

年間数は約1200人

2030年まで微増していく傾向

母子保健と、児童福祉の向上を推進しなければならない

## ピアラルうらそえ 施設案内



子育て相談ができ、親同士が出会い、安心した子育てへ。  
**そだちのひろば うぐいす**

お子さんの育ちや発達に心配があったり、子育てに不安をお持ちの方が、親子遊びを通して楽しく関わり方を学び、就園のための準備をしたり、お子さんのからだや心の育ちを促す場です。次の支援につなぐ取り組みを行います。



障がいがあってもなくても子育ては大変です。  
すべての親御さんが、子育てに自信が持てますように。  
**児童発達支援センター たんぽぽ**

基本的な生活動作の指導、集団生活の適応に向けての療育を行います。地域の保育園等への訪問支援も行います。  
(保育所等訪問支援事業) 利用には受給者証の申請が必要です。  
相談事業所どんぐりの木は受給者証の発行に必要な計画案を作成致します。

ピアラルうらそえは、子ども・利用者さま ひとりひとりの「喜び」を何よりも大切に、幼少期から成人期までの一貫性のある継続支援および地域の相談支援の強化に努めます。

「森」は、種々の樹木、生き物にあふれ、多様な文化を発信する源になります。  
地域の多様なニーズに応え、よりよい相談支援体制づくりを目指します。  
**浦添市障がい者(児)基幹相談支援センター てだこの森**

○障がいのある方やそのご家族の日常生活のさまざまなご相談をお受けします。※障がい種別、障がいの診断の有無は問いません。  
○障がいのある方やそのご家族を支援する地域の方や福祉サービス事業所などの関係機関のご相談にも応じます。  
○電話、FAX、来所、訪問などご希望にあわせ、ご相談に対応いたします。  
○ほかに、地域やサービス提供事業所などとの連携体制づくり、浦添市障がい者自立支援協議会の運営にも取り組みます。



相談に「ていねい」「寄り添える」ことができるように。  
たくさん「エール」を届けることができますように。  
**発達相談クリニック そえ〜る**

親子の健やかな育ちを支えることを目的として、発達検査や診断、療育相談を行います。対象は、主に未就学児とし、小学校6年生までを対象とします。電話で予約をお願いします。  
098-942-7700(予約受付：月・火・水・金の15時～17時)



『第4次寺子障害者(字プラン平成30年障害福祉計画は、子供、子育て支援事業計画と連携して推進する乳幼児検診から児童発達支援につなぐフォロー体制の構築を図るとの方向性を示す』

### <施設の特徴>

**特徴** 幼少期から成人期まで一貫性のある継続した相談支援所、施設拠点施設

### <支援の体制>

浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」は、浦添市における幼少期から成人期までの障がい児(者)に対する一貫した福祉・保健・医療の継続支援並びに、地域相談支援の強化を実現するための中核的な施設として、浦添市社会福祉協議会と、これまで浦添市における精神科医療対策をはじめ、発達障がい児・者の地域診療や家族支援などに取り組んで来ましたが、特定医療法人「へいあん」とが協働企業体を形成し共に事業・運営する。今後は、両法人が協力的、相補的に機能集約することで、より効果的に障がい児(者)に対する一貫した福祉・保健・医療の継続支援と地域相談支援の推進・強化を図る。

社会福祉協議会としても、同施設を拠点とした障がい児への療育や、その家族への相談支援、障がい児が通う保育園などに出向き専門的な知識と技術のもと援助などを行う、浦添市児童発達支援センター「たんぽぽ」の運営をはじめ、これまで推進・強化してきました「コミュニティソーシャルワーク」の

実践活動を活かし、障がいの有る無しに関わらず、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場として、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指していく。

■視察先：(4) 沖縄県那覇市

7月14日(金) 10:00~11:30

行政手続きのオンライン化について

<事業の概要>

誰もがデジタル技術の恩恵を受け、便利で豊かな那覇を目指して

デジタル技術の目覚ましい進展

市民の生活、社会経済活動に大きな変化をもたらす

生活のあらゆる場面に欠かせない社会インフラ

コロナ禍を機に時間や場所にとらわれない活動を可能とする。デジタル技術の役割は拡大

AIブロックチェーン、メタバース、VRなど、先進技術の発展は、サービス提供や課題、解決のあり方を大きく変えていく可能性を秘める

環境の変化を受け、市役所においても、デジタル技術の活用を通じて、行政サービス、組織及び風土文化を変革し、新しい価値を目指すDXの取り組みが求められる

DX推進基本理念(デジタルで変わり続ける街、那覇、DX推進の目的、市民利便性を実感できること職員いつの時代も活力ある市役所であること

<事業開始の経緯と背景>

誰もがデジタル技術の恩恵を受け、便利で豊かな那覇を目指して

デジタル技術の目覚ましい進展

市民の生活、社会経済活動に大きな変化をもたらす

生活のあらゆる場面に欠かせない社会インフラ

コロナ禍を機に時間や場所にとらわれない活動を可能とする。デジタル技術の役割は拡大

AIブロックチェーン、メタバース、VRなど、先進技術の発展は、サービス提供や課題、解決のあり方を大きく変えていく可能性を秘める

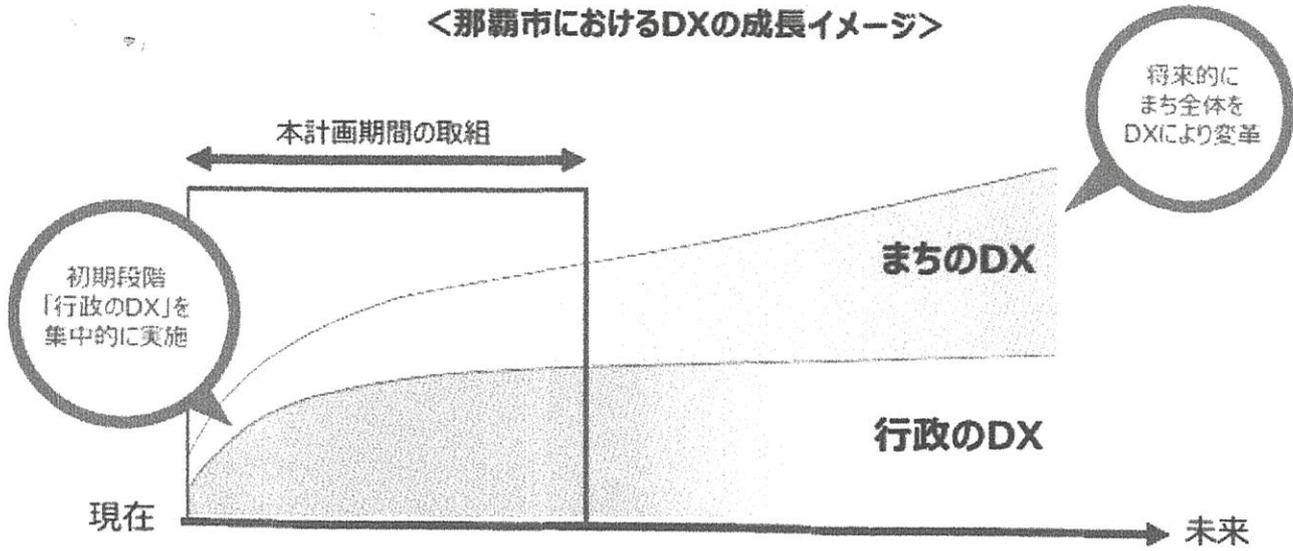
環境の変化を受け、市役所においても、デジタル技術の活用を通じて、行政サービス、組織及び風土文化を変革し、新しい価値を目指すDXの取り組みが求められる

DX推進基本理念(デジタルで変わり続ける街、那覇、DX推進の目的、市民利便性を実感できること職員いつの時代も活力ある市役所であること

誰もがデジタル技術の恩恵を受け、便利で豊かな那覇を目指して このことを目指すべき将来像として、また市民が利便性を実感できること。職員はいつの時代も活力ある質市役所であることこの2つをDX維新の目的として設定している。また、那覇の取り組みの特徴は、目指す那覇の未来の実現に向

けて、初期段階で、行政のDXを短期かつ重点的に取り組み、段階的に町全体をDXにより変革していくことを目指しているところだ

### <那覇市におけるDXの成長イメージ>



社会的な期待の高まり

デジタル技術の浸透

国の動向

自治体DX推進計画策定

デジタル社会の実現に向けた重点計画策定

県の動向

沖縄ITイノベーション戦略センター設立

沖縄県DX推進計画策定

目的	取組の方向性	取組により実現したいこと	取組事項	
デジタル技術により実現される利便性を実感でき、安心して生活や事業を営める	① 「便利さを実感できる」ための取組	暮らしを支えるサービスが充実している	No.1 住民向けサービスのデジタル化 No.2 マイナンバーカードの普及・活用	
		「行かない・書かない・待たない」環境を整える	No.3 行政手続のオンライン化 No.4 施設・窓口のオンライン予約の整備	
		② 「安心・信頼できる」ための取組	必要とする行政サービスをタイムリーに受けられる	No.5 一人ひとりのニーズに合った行政情報の提供
			デジタルを選択しない市民が、きめ細やかな支援を受けられる	No.6 誰もがデジタル技術の恩恵を享受できるようになる
	市役所の取組や、取組に至った理由や根拠を知ることができる		No.7 EBPM（根拠に基づく政策立案）の促進	
	③ 「共にまちをつくる」ための取組	自ら地域の課題や地域づくりに加わることができる	No.8 デジタルを活用した公民連携事業の推進	
		多様な主体がデジタルを活用して連携できる	No.9 オープンデータの推進 No.10 データ連携のユースケース検討	

目的	取組の方向性	取組により実現したいこと	取組事項
利用者の視点で質の高いサービスを創出できる活力ある市役所になる	①「意識を変える」ための取組	職員一人ひとりがDXの必要性と有用性を理解し、デジタル技術を手段として積極的に活用することができる	No.11 DX施策実行に至るまでの動機形成
		職員が安心してDXに取り組める環境があり、組織全体にDXの取組が浸透している	No.12 DX推進に向けた庁内支援体制の構築
	②「業務の仕方を変える」ための取組	デジタル技術を活用して、業務の生産性を高めるとともに、事務効率化によって生み出された時間を更なる市民サービスの向上に繋げる	No.13 業務の自動化促進
			No.14 オンライン相談体制の整備と相談業務の効率化
			No.15 コミュニケーションのオンライン化
	③「働き方を変える」ための取組	職員が個々の能力を發揮できる多様な働き方ができ、仕事にやりがいを持てる	No.16 業務効率を最大化できる働く環境の整備
			No.17 業務効率向上に資するペーパーレス化の推進

上記に設定した取組事項以外にも、システム標準化など法的事項となっている取組や、国の施策によるデジタル規制改革等の取組については、動向も踏まえながら対応していきます。

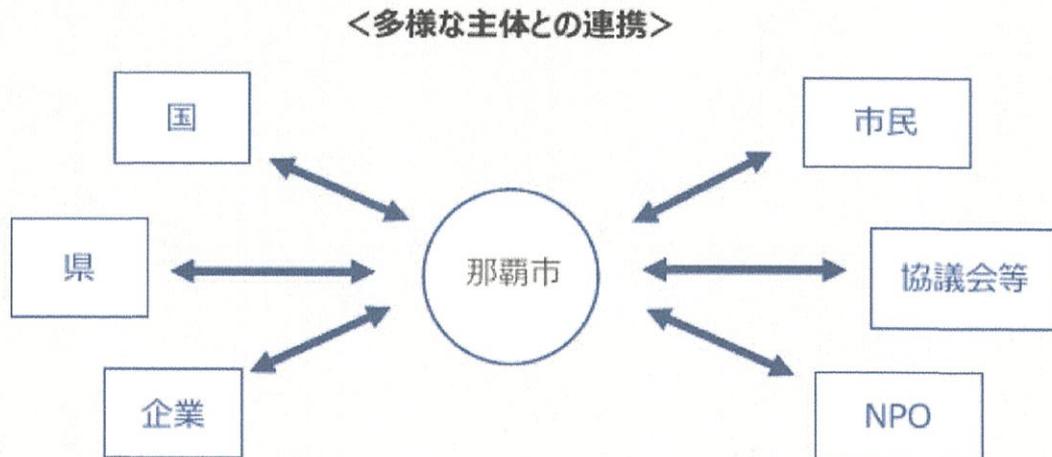
#### <民間企業や地域団体との連携>

デジタルを活用した公民連携事業の推進

デジタルの普及により、市民自身や市民団体がテクノロジーを活用して、行政サービスの問題や地域課題を解決するシビックテックの取り組みが広がっている

市民自身やシビックテック団体が活動しやすい環境を整備するとともに、相談や提案に対して、デジタルの側面から支援するための庁内の支援体制を確立する

公共性の高い取り組みに意欲関心を持つ市民の活



将来的なまち全体のDXの推進に向けて、本計画の初期段階から多様な主体との連携を図ります。

利用者の視点をもとに行政サービスのデジタル化を進めていくには、市民、事業者等と連携し、課題やニーズを把握することが重要です。

また、国が主導する各種施策との連携や、DX推進のための支援策を活用することで、効率的に取り組を進めます。

動をデジタル技術の側面から支援することで、市民向けのサービスを充実させていく

加えて、県をはじめ県内市町村との情報及び取組の連携を図ることで、スピード感をもってDXを推進することを目指します。

また、多様な主体と連携し本計画を推進する中で、目指す那覇の未来の実現に向けて、DXを進めるための公民連携の在り方を検討していきます。

<市民の声(評価要望)>

行政サービスの使いやすさに対する意見



情報が散在していて、自分が必要な情報を探し出すのが大変。



電動車椅子が壊れたので、その修理費の助成金申請のために市役所に行った。自分で移動できないので、ヘルパーさんの手配等もあり大変。



市役所から電話がかかってくることもあるが、音声だと上手く伝わらないこともある。メール等テキストでやり取りできる選択肢も用意されていると助かる。



健康保険証と高齢者カード等、複数のカードを持ち歩くのが面倒。



自身に必要な情報を、LINE等普段使っているアプリにプッシュ型で提供してもらえると便利。



仕事のため、市の入札情報を建設新聞等で確認することがある。市のウェブサイトでもわかりやすく示してもらいたい。

次項へ続く



## 行政サービスを受ける上での困りごとや暮らしにおけるニーズ



たくさんある予防接種の際に、同じ情報を書くことが大変。以前住んでいた自治体では氏名住所等の基本情報はシールが貼られていて便利だった。



窓口に行くのはいいが、子供もいるため、事前予約など待ち時間をなくす工夫があると助かる。



何のワクチンを何回摂取したか忘れがちなので、アプリで確認できると、母子手帳を持ち歩くリスクが減って便利



オンラインで自宅から申請ができれば、行く必要もヘルパーを依頼する必要もないためありがたい。



手続きについて相談する際、窓口へ行かず、ZOOM等のオンライン会議ツールで相談できると便利。



市役所での手続きのために、平日に仕事を休まなければならない困っている。



公共系の仕事は書類仕事が膨大なため、管理職はペーパーワークに忙しく、現場のマネジメントに関与できていない。

## 多様な主体との連携が求められる課題



申請に医師の診断書が必要な場合、市役所で書類を受け取り、病院で診察を受け、別日に診断書を受取り、市役所へ提出する必要がある。移動に時間がかかるため、全て行うのに4日必要で、4日分の有休を使っている。

## デジタル化が進むことへの不安や懸念



全てオンラインになり、会話がなくなると寂しい。窓口では、手続きのついでに職員と会話できるといい。



単にサービスを提供するのではなく、使い方や手順をいつでも気軽に聞ける場所がほしい。子どもが近くに住んでいないため気軽に聞けない。わからないことがあれば携帯ショップで聞くことが多い。



スマホ教室に行ったこともあるが、基本的なこと（アプリとは？バックアップとは？）が理解できなかった。もっと基礎的なことを学べる場所がほしい。



オンラインで自宅から手続きできることは便利だと思うが、分からないことがあると困ると思う。

## セキュリティ事故等のリスクに対する不安



母子手帳アプリは便利だが、データが消えないか不安を感じる。



写真や口座情報をインターネット上に載せることに抵抗がある。



情報漏洩などセキュリティに対する不安がある。オレオレ詐欺などの事件に巻き込まれることも怖い。



マイナンバーカードはセキュリティが不安で取得していない。

### <現在の課題、今後の展開等>

現在の市民の相談方法は、電話または窓口対応に限られ、市民にとっては雷鳥等に伴う負担が大きいと言う課題がある。職員にとっては相談記録の作成など窓口対応以外の業務負担が大きい。

課題は

新たなサービスの利用促進

新たな相談体制への適応

市民職員、双方が利用しやすいツールの導入

市民と職員、双方の視点を持った業務デザイン

### ii 所管

那覇市所感

誰もがデジタル技術の恩恵を受け、便利で豊かな那覇を目指して このことを目指すべき将来像として、また市民が利便性を実感できること。職員はいつの時代も活力ある質市役所であることこの2つをDX 維新の目的として設定している。また、那覇の取り組みの特徴は、目指す那覇の未来の実現に向けて、初期段階で、行政のDXを短期かつ重点的に取り組み、段階的に町全体をDXにより変革していくことを目指しているところだ